

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！

ネットワーク

Network

NO.370 2021年

2月号

特集

東日本大震災 ～それぞれの10年

いいもの みい～つけた！ vol.29
NPO 法人 杉並いずみ
手焼きのおせんべいと、手作りアクセサリー

思い立ったがボラ日
NPO 法人 絵本カーニバル
ミニ絵本キットづくり

TVAC News vol.9
シンポジウム コロナ禍とボランティア・
市民活動 ～これまでとこれから～

2020年のできごと
ボランティア・NPO・
市民活動をめぐる動き



ミニ絵本キットづくり



どんな場所でも絵本カーニバルにかかればこんな素敵な空間になる。まるで魔法のよう！
写真提供= NPO 法人絵本カーニバル

思い立ったが ジツ ポラ日

このコーナーでは、毎回一つの団体取材し、活動内容やそこで活動するボランティアさんの生のお届けします。



スタッフがフェルトで制作しているテーマサイン。



活動内容について何う。紙芝居を観ているようで楽しい。

「わあー素敵！「かわいい！」——東京ボランティア・市民活動センターのフリースペースの机上にはフェルトの装飾や絵本、ワークシヨップ用のキット類が置かれていた。NPO法人絵本カーニバルのスタッフさんが取材前にセットしてくれたものだ。マスクはしていても、スタッフさんが笑顔なのがわかる。見知った間柄でも、取材となると最初は緊張するものだが、温かい空間に包まれ、こちらも自然とほほ笑んでいた。

絵本を飾り、舞台を整えることで、特別な空間をつくりあげる

絵本カーニバルでは、全国の子ども病院や小児病棟に長期入院している子どもたちとその家族に向け、絵本を展示した空間とワークシヨップなどの体験を届けている。体験型なのは、ミニ絵本づくりと音楽療法士によるワークシヨップだ。

病気の治療をする子どもたちにとって、学ぶ・遊ぶなど実際の体験を積むことは難しい。「絵本は体験を補い、さまざまな興味の世界の扉となる

り得ると考えたのが活動のきっかけです。医療機関や地域と連携・協力しながら絵本カーニバルを展開してきました」とスタッフさん。東日本大震災以降、被災地でも同様の活動を行っており、全国各地で150回以上、開催してきたそう。

スタッフさんは、資料を掲げながら、活動の様子を紙芝居のように語ってくれる。「展示空間が、コミュニケーションの場となることも目的の一つです。どんな場でも絵本を飾り、舞台を整えることで、多世代・多様な人が交流できる場へと空間ごとつくりかえています」

一人ひとりに寄り添うことで、絵本はより良い影響をもたらす

絵本展示をする本棚はダンボール製のものを持ち込む。空間や対象に合わせて幅や段数をアレンジできるからだ。壁などに装飾するフェルトのクラフトも、サイズの異なるものが数種、用意されている。ミニ絵





たくさんの本の中から好きな本を選ぶことができる。「どれがいいかな」という声が聞こえてきそう。写真提供=NPO 法人絵本カーニバル



ミニ絵本づくりのワークショップは人気のプログラムだ。写真提供=NPO 法人絵本カーニバル



取材前にセットしていただいたミニ絵本のキット、装飾のフェルト、絵本。見るだけでワクワクがこみ上げる。

本づくりは、両手が使いつらい子どものために、片手でもシールがはがせるような工夫が施してある。

小児病棟には、0歳から18歳まで年齢層が幅広い、さまざまな病気の子どもが入院している。絵本カーニバルでは、その一人ひとりのことを考えて本を選ぶ。「絵本は感性を育むもの。子どもだけではなく、ご家族や医療従事者の方々にも良い影響を与えるものと期待しています」と話す。

病院関係者の感想を読むと、「期待」だけではないことがわかる。「病院が病院じゃない世界になる」「別の病棟から足を運ぶ先生もいました」「化学療法でクリーンルームになってしまつと、どうしても、食欲がなくなつたり、口内炎が出来たりして、食べれないっていう状態にもなるんですけど、そういう時に、親御さんはかわいそうだからと『たべるもの』のテレビや本を遠ざけるようにされることもあるのですが、逆に、食べる絵本を持っていくと『わーおいしそー!』と、子どもたちがほんとうに食べ

たつもりになって読むので、絵本の中で想像して楽しめる、すてきなものだと感じています。」(アンケート原文ママ)

どんな状況でもできることを

新型コロナウイルス感染症の流行により、多くの医療施設ではボランティアの受け入れを停止せざるを得ない状況だ。そうした中、子どもたちとの直接的な接触を伴わずに開催できる絵本展示活動に対する要望は高いという。対面で行うミニ絵本づくりのワークショップは現在できないが、1人分ずつ個包装したキットを病院に届けている。絵本展示やキットの依頼は多く、楽しみに待っていてくれるという。「活動をより知っていただき、支援の輪を広げたいと思っています。感染拡大の不安が収まり、一緒に活動していただける日を楽しみにしています」(絵本カーニバルからのメッセージ)

NPO 法人 絵本カーニバル

〒114-0024 東京都北区西ヶ原 1-20-16



次ページでは
活動内容を紹介しています



編集部が体験してみました！



4

キットに入れるシールをそろえます。



1

まずは、手づくりミニ絵本の
のつくり方を確認。



5

完成のイメージ。見本に正確につくる子もい
れば、アレンジして楽しむ子もいるそう。手
づくりミニ絵本は、年齢や病状により選べる
よう、いくつか種類が用意されています。



2

テープやのりを使わずに絵本のページをつくる
ために、台紙に切り込みを入れます。どんなし
くみかは…体験者のみぞ知る！



6

つくったキットを一部、いただきました！



3

スタッフさんに教えていただきながら、
台紙を組み合わせ、表紙をつけます。



深める

ボランティア・市民活動に役立つ視点や情報をお届けします。

特集

東日本大震災～それぞれの10年

- 6 **寄稿** “震災10年”を考える
—ボランティア・市民活動の課題をめぐって—
◇渡戸一郎 明星大学名誉教授
- 9 **Voice from 3.11** みなさんの声を、お聞かせください
◇3.11から10年 私たちの思いと願い
- 13 **インタビュー** 東日本大震災から地域へ みんなでつくる日野の防災プロジェクト
荒川社協と区民が体験した震災復興10年
～今できることをともに模索して～

知る

ボランティア・市民活動のさまざまな形やボランティアに
一歩ふみだすヒントを、ご紹介します。

- 1 **思い立ったがボラ日** NPO 法人 絵本カーニバル／ミニ絵本キットづくり
- 19 **2020年のできごと** ボランティア・NPO・市民活動をめぐる動き
- 21 **TVAC News vol.9** シンポジウム「コロナ禍とボランティア・市民活動
～これまでとこれから～」を開催
- 23 **2021年版 市民活動用語のキソチシキ その2** 語り部／日本語ボランティア／フェミニズム
- 24 **つばやきブレイク vol.17** 「妖」とともに生きる
- 26 **いいもの みい～つけた！ vol.29** NPO 法人 杉並いずみ
手焼きのおせんべいと、手作りアクセサリ

『ネットワーク』の公式Facebookページあります！

▶▶▶ <https://www.facebook.com/tvac.network/>

- 取材のこぼれ話や、次号に向けて進行中の記事についてリアルタイムでご報告します！
- 過去に掲載した団体の情報や、本誌に関連する東京ボランティア・市民活動センターのお知らせなどを発信します！
- お気に入りやブックマークに登録してご利用ください！

ぜひご利用
ください！



読者の声

～本誌369号より～

読者の皆さんからいただいたアンケートの一部をご紹介します。

◆特集：「生きる」をよみかえあつ

・最首悟さんの寄稿を非常に深く受け止めました。今の日本では「支援」「ボランティア」にも成果が求められるような風潮があるかもしれませんが、「ただいま、そばにいる」という形にならない支援のありかたもあるのだなと思いました。

・各団体の工夫されている様子が伝わってきました。「大変なのは自分だけじゃない」「みんな我慢している」と相談をためらう状況、よくわかります。でも辛いのは辛しい、それは人と比べるものではないから、こういう時こそ声をあげてほしいよね！という社会になってほしいですね。

◆あすマネ：オンライン時代のNPO活動

・「オンライン」が広がる今、配信側が知っておくべきこと・法的なことが多々あることが（私のようなネット音痴でも）、理解しやすい内容・文章の記事で、興味深く読みました。慣れない人や団体もオンラインでの活動を余儀なくされている今、非常にニーズの高いテーマだと思えます。

◆思い立ったがボラ日：世田谷すみればネット

・素敵な場所に人びとが集い、新たな交流や活動が生まれ、地域への愛着も深まるという、理想的な活動だと思えます。

・直接的に誰かを助けるといふ以外にこういうボランティアもあるんだなと新鮮でした。

◆セルフヘルプという力：NPO法人しゅわえもん

・手話っていいなと思いました。（ネットのライブ番組）「しゅわえもんナイト」を観てみたいです。

・コロナで「会えない」という課題があるなか、いろいろなアイデアやトライで新たな可能性をつくる力はすごいと思います。

◆いいものみい〜つけた!〜明日の自由を守る若手弁護士のお会

・社会科を担当する教員として、このかたるたを授業で活用してみたいと思いました。

・商品の特徴がわかる写真、子どもたちの遊んでいる写真…「いいもの」がさらに光りますね。

東京ボランティア・市民活動センター

(TVAC: Tokyo Voluntary Action Center)

<http://www.tvac.or.jp>

東京ボランティア・市民活動センターは、ボランティア活動をはじめとするさまざまな市民の活動を推進・支援しています。どうぞご利用ください。

利用 *ご利用人数はホームページでご確認ください。

会議室	会議室A・B(各40人)・C(15人) 無料 ※会議室AB通し(80人)
貸出機材 申込み	印刷機(2台)紙持ち込み、点字プリンター 他 4ヶ月前から電話で受付(03-3235-1171)

情報提供

最新のボランティア・市民活動情報は、センターのホームページでご覧いただけます。<http://www.tvac.or.jp/>

開所時間 *ホームページでご確認ください。

火曜日～土曜日: 9時～21時 / 日曜日: 9時～17時
(月・祝祭日・年末年始除く)

交通アクセス

JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 出口B2b)
飯田橋駅下車

ネットワーク

は、ボランティア・市民活動を広げ、
応援する情報誌です!

【次回予告】2021年3月下旬発行予定

特集「食」とボランティア・市民活動(仮題)

発行人 山崎美貴子

編集委員 五十嵐美奈(興望館)
上杉貴雅(オレンジフラッグ)
江尻京子(東京・多摩リサイクル市民連邦)
齋藤啓子(武蔵野美術大学 造形学部教授)
社会学ゼミ(TDU-豊栄大学)
中原美香(NPOリスク・マネジメント・オフィス)
まつばらけい(フリーライター)
渡戸一郎(明星大学名誉教授)

編集・発行: 東京ボランティア・市民活動センター
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ10階
TEL: 03-3235-1171 FAX: 03-3235-0050
E-mail: nw@tvac.or.jp

印刷: (株)丸井工文社

デザイン: 東京ボランティア・市民活動センター / (株)丸井工文社
表紙イラスト: フローラル信子

2021年1月20日発行(通巻No.370)
ISBN 978-4-909393-25-8 C2036
371円+税

本誌掲載記事の無断複製・転載を禁じます。

